

浜松市中区の「UO (ウオ) デザイン事務所」が、デザインを担当した大手メーカー製ボールペン用のカスタムパーツを商品化し、15日に発売する。静岡文化芸術大(同区)を卒業した30代の同級生2人が、新型コロナウイルス禍の昨年5月に設立した同事務所の自社ブランド製品第1号。「後輩たちの励みになれば」との思いを込め、前向きな発想で事業に挑む。

ペン先端部デザイン商品化

# 自分だけの1本に`変身`

## 静岡文化芸術大卒業生 「後輩の励みに」



デザインした「ボールサインiD」と、自社製品のステンレス製先端部を組み合わせて、魅力をアピールする松田優さん(左)と谷雄一郎さん=11日、浜松市中区のUOデザイン事務所

同社がデザインを受けたボールペンは、サクサクレパスの「ボールサインiD」(税込み2200円)。共同代表の松田優さん(35)と谷雄一郎さん(34)が「黒系だけで6色を生み出す」との異色のコンセプトを軸に、丸形と六角形の間を取るようなグリップ部分の斬新な形状を約8カ月間かけて考案した。

昨年末の発売から全国で好評を博し、国際的に権威あるドイツのレッドドット・デザイン賞も受けた。ただ、市場向け純正モデルは、ペン軸の先端部の先栓が販売価格などの都合でプラスチック製になった。先栓をステンレス素材にしたかった2人が専用パーツの開発に踏み切った。

取り換えることで重心が先端側に移り、重量が約4割増して高級筆記具のような心地よい書き味につながる狙いだ。デザインも本体と調和を取った。価格は550円と、本体価格を上回る。「自分だけの一本が欲しい人」

は分かってもらえる」と2人は自信をのぞかせる。UOオンラインストアで売り出し、3カ月で千個という販売目標を掲げる。

アルバイトを含めて6人いる事務所は全員が静岡文化芸術大の卒業生が現役生。谷さんはススキで10年間、二輪車のデザインに携わった。デザイン受注の7割を地元企業が占め、松田さんが非常勤講師を務めてきた同大からは早速、商品活用などの支援提案があったという。

2人は「製品開発の挑戦は仕事をより主体的に考える好機になった」「使命感を持って

母校の地元で頑張り、企業連携も一層加速させたい」と意気込む。(浜松総局・荻島浩平)